

1 「本質的な問い」による単元（題材）構想について

- 「防災グッズをつくる」という単元のゴールを設定し、避難に必要な品物の重さを3 kgをめやすに選択し、見当付け測定するという必要感のある学習を展開した。本単元の本質的な問いに対して、児童は生活の中で重さの学習が役立つことを感得し、もっと身の回りのものを測定したいと意欲をもつことができた。

	知識・技能 (単元テスト正答率)	思考力・判断力・表現力 (単元テスト正答率)
本単元	95.7%	72.6%
量と測定「長さ」	92.4%	81.2%

2 単元（題材）で育成を目指す資質・能力について

【知識・技能】

- 4時間目の測定を通して、確実に量感を得ることができ、重さをkg, gを使って表すことができるようになった。
- グループで目盛りの読み方を確認しながら測定し、加減計算することができた。学習の中で得た1 kgの量感を基に、重さを予想して3種類の計器の中から適切なものを選ぶことができ、秤に応じた目盛りの読み方を確実に身に付けることができていた。
- グループ活動であることから、測定した物の合計を個々が正しく精査することが本時の中では難しかった。計算については、計算機を使うことも考えられた。

【思考・判断・表現】

- 9時間目の学習では、長さ・かさ・重さの単位の関係を知り、重さであっても単位の換算や加減計算ができることを理解した。
- 予想した重さと測定結果を照らし合わせることで、自分の量感覚や重さのイメージを確認したり修正したりすることができた。また、グループ学習を通して、測定結果の気付きや感想を交流することで、重さについての感覚を養うことができた。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 学習してきたことを身の回りの生活と関連付けながら防災グッズの重さを量るという活用する場面を設定したことで、見た目や質感によって予想した重さと違うことに気付き、さらに生活の中でいろいろな物を測定してみたいと意欲をもっていた。また、毎時間後の振り返りでは、重さの測定を自分事としてとらえた気付きがよく見られた。

(以前) はかる物に合うはかりを使わないとこわ れてしまうから考えてはかりを使いた いです。	(本時) 軽そうなのに重かったり、重そうなのに軽かったりするものがたくさん ありました。それをふまえて、1kgの重さのかんかくをもとに、身のま わりのものの重さをもっと調べてみたいです。
---	--

- 算数科の学習と防災の学習を区別し、本時では、測定と合計の計算のみを行い、避難に必要な物の選別は、総合的な学習の時間に行うという展開も考えられた。

3 「デジタル機器」の活用

- 本時の導入場面で、数種類の秤を大きく提示し、各自のタブレットでも確認させた。既習内容である秤の最大容量や1目盛りの読み方を復習したことで、児童は、測定に自信をもって授業に臨むことができた。